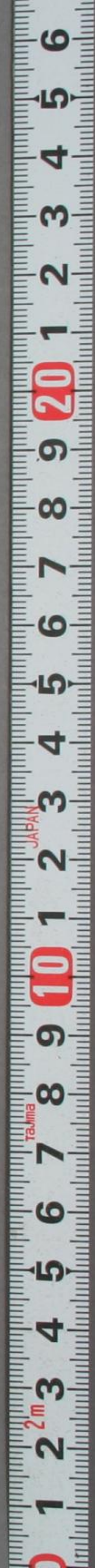


海外新聞 四十一號

辛未三月七日



服部文庫
117
88
7



117
88
7



海外新聞四十一号

千八百七十一年第三月二十七日 我二月七日 横

濱刊行ヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

戦争新聞電機ノ報

第二月十五日 我去十二月廿六日 ウェルサイルヨリ日帝ハ

何時頃其国ニ帰ルヤ未タ詳ナラスサレトモ想

フニ廿三日 我正月五日 ニハウェルサイルヲ去リテス

トラスブールカルスリエースチュツトガールムニ

一シヲ過キ嘗テ己ヲ推選シテ皇帝ノ尊号ヲ奉

海外新聞 四十一

ケタル諸侯伯ヲ訪ヒ其侯伯ヲ率ヒテ凱歌ヲ唱
ヘ伯^イ入ル可ク且日耳曼聯邦ノ公會第三月
一日^{我正月}ニ始レハ伯^イ到着ノ期ハ必ス此
時迄ニ於テス可シ又日軍ノ紀律ハ毫モ弛漫ノ
状ナク戦勝帰国ノ日ト雖モ未タ其功ノ終ラサ
ル者ノ如シ蓋シ其終リヲ慎ム^ト猶其始ニ於テ
スルカ如シト謂フ可クシテ若シ戦争復ヒ起ル
時ハ其精新ノ氣ヲ用ヒントスルノ戒心ヲ存ス
ルモノナリ

第二月二十一日^{我正月}倫敦ヨリ巴勒府ノ護衛
兵ハ一旦之ヲ解散ヒシメ日軍本府中ニ入ル以
前ニ再ヒ聚合編成ス可キニ決セリ又ナイスノ
知縣ヨリ布令シテガリバルゲ黨ノ義勇兵ハ總
テ當府ヲ立退シメタリ
士官ヨリ軍務局ヘノ報告書ニ由テ見ルニ當年
第一月ノ間ニ^仙軍ノ死傷損失スル所總計大砲
八百門軍士三十五万人ナリ此内^{シヤン}シイノ失
フ所二万五千人ロ^エノ失フ所一万二千人ヘ

イデルブノ失フ所一万一千人
 グールバツキノ失フ所
 三万人巴勒府軍失フ所
 十五万人ニシテ東方ノ
 仙軍八万人ハ瑞^{スウェーデン}士国ニ
 遁レ入レリ又同月間日軍ノ
 死傷ハ一万人ナリ
 第二月廿五日我正月七日巴勒ヨリ
 和時ノ仮條約今日竟ニ決定セリ
 條約ノ委細ハ未タ聞カサレトモ定テ
 嚴酷ナル可ク且談判中モビスマルクノ
 所置始終皆刺薄ナリ
 ラツペル新聞ニ云フ
 チイル氏ハ國會ノ委任官

等ト共ニ多分土曜日ニボルト
 一ニ赴キ條約ノ旨ヲ國會ニ示スナル可シ
 願フ所ハ速ニ此約條ヲ採用シテ事ヲ決スルニ在リ
 此上休戦ノ期限ヲ延サントスルハ無益ニ屬スルニ似タリト
 日軍伯^{ラッセル}ヲ凱旋ノ日ハ二月月ヲ延セリ
 是日耳曼^{プロシヤ}國此度ノ戦争ヲ哀シムノ日
 六週日ノ後ヲ期スルカ故ナリ
 チイル氏^{ラッセル}ノ代リニ更ニ十方々
 ターレルヲ出サント云ヒシカ日國ニテハ
 之ヲ肯ハサリ

レ由

償金ヲ皆済ス可キ三年ノ期限間ハ普ノ兵五万人
人^レンパン府ヲ據有^レ請求ノ推ヲ持^レテ仏國
政府ノ供給ヲ受ケ在留ス可^レシ若^レシ期限前ニ償
金皆済ニ至ラハ直チニ本府ヲ引拂フ可キノ約
束ナリ

第二月二十八日我正月十日巴勒ヨリ日曜日我正月八日

ノ夜日軍直チニ進入スルノ風説アリシ故慷慨
憂國ノ徒憤發シテ大ニ騷擾シ護國兵等ハ^レハ

プエリ^レシ^レニ胸壁ヲ築キ敵軍ヲ防ク可キノ準
備ヲ為セリサレトモ何事モ無カリシカハ夜半
比ニ騷擾漸ク静定シタリ○群聚ノ者セ^レント
ペラ^レジ^レノ獄舎ヲ脅シ此所ニ囚レ居タリシ衛
兵ノ將二名ヲ救ヒ出セリ
同日巴勒ヨリ即今當府中甚タ騷カシク人衆街
衢ニ充滿シテ乱暴狼藉ノ体ナリ
人民等取締ノ役人等ヲ殺サントテ之ヲ襲撃セ
シ^レアリ其打殺サレ^レ者一人縊リ殺サレ^レ者

一人水中ニ投込レ溺死セシ者一人アリ
騷擾弥劇レクベルウキル及ヒモントマルトルニ
在ル護国兵ハ兵器ヲ持シテ警固ヲ嚴ニセリ
護国兵等大勢兵器ヲ持シテジャンブエリレニ
進ニ此所ニ陣営ヲ構ヘ警テ日軍ヲ撃ント要セ
リ
チール氏フアীগル氏ノ首ヲ斬ラント願フ者ア
リ
英米兩國アラバマ号船一件ニ付其兩國ノ委任

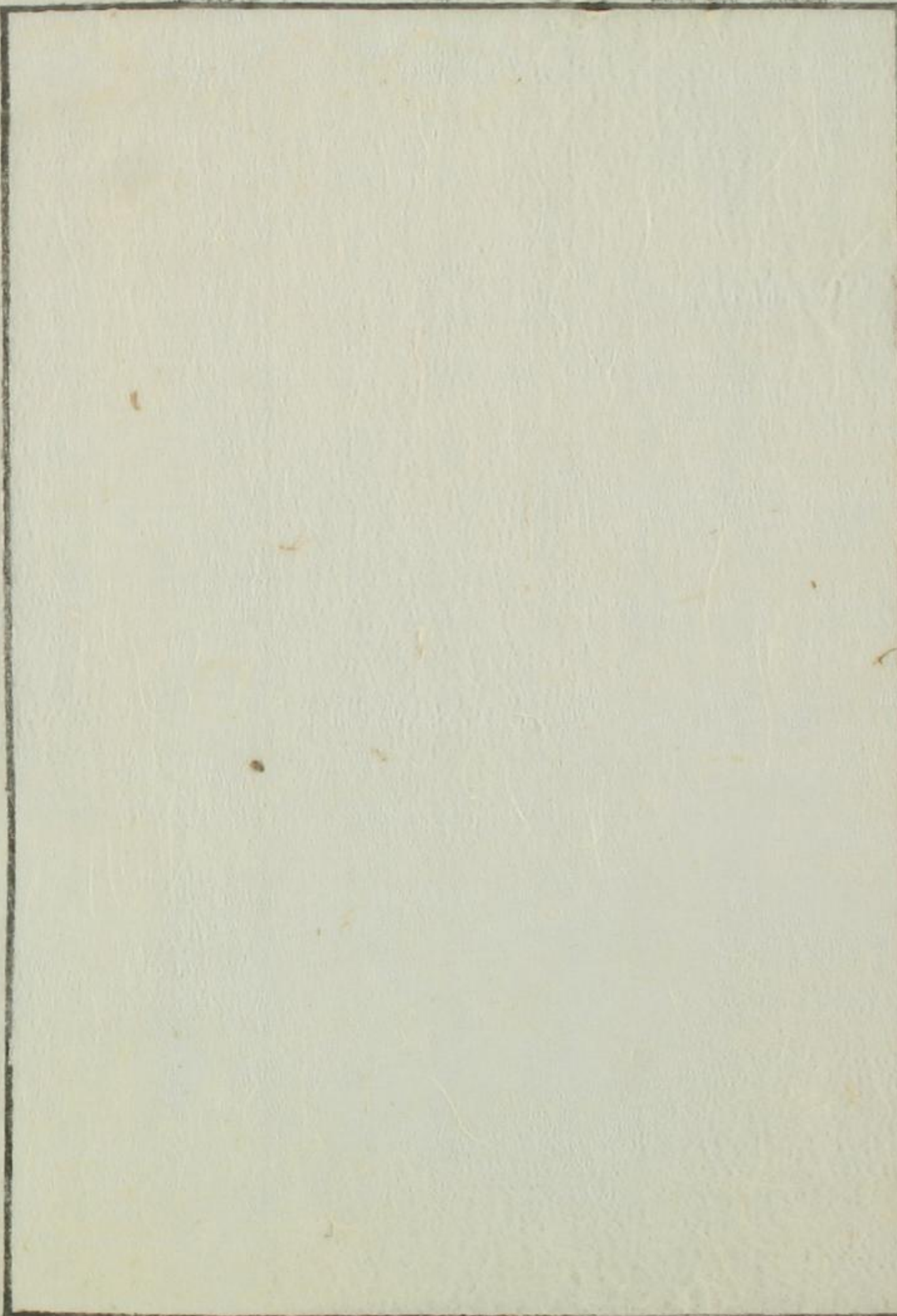
ヲ受ケタル官負第三月九日我正月華盛頓ニ於
テ集會セリ

来西サフランシス斯哥每週新聞ヨリ抄譯ス

亞米利加洲カリフォルニアノナパト云フ
地ニ於テ茶ノ植付ヲ為セシ事
昨年當所へ日本ヨリ数千ノ茶苗ヲ持来リ久シ

ク貯へ置テブラナン氏ノカリストガニ在ル領地ノ中ニ植付タリシカ此茶苗其本土ヲ離レテ久シクナリシ故ニ植付ル比ニハ皆凋レテ根付クコ覺東ナキ体ナリサレトモ百本ノ中十本カ十五本許ハ葉ヲ生スルモノアリシ故即今ハ餘リ宜シキ勢ニハアララスト雖氏多分ハ次第ニ生長スルナル可シ又此時共ニ日本ヨリ茶ノ種ヲ多ク持渡リ同所ニ於テ蒔付タリシカ皆萌芽ヲ露シテ蕃盛ス可キ勢ニ及ヘリサレハ此試験ノ

植付ノ必ス成就センコト疑ヒ無カル可ク且此事ヲ委任シタルペルキン氏近頃神奈川ニ在ルユニジンハンリド氏ヨリ茶ノ種數百ボンドヲ送り越サレシ故ブラナン氏更ニ手廣ク此事ヲ起サント猶ペルキン氏ニ委任シテ專ラ茶ノ植付ヲ勉メ居レリ願ハクハ兩三年ノ後カリフォルニアノ茶合衆国ノ市場ニ於テ名産ト為リ竟ニハ米洲ノ穀物葡萄菓類ト并ヒテ要品ノ中ニ列セラレンコトヲ



千八百七十一年第四月三日 我二月十四日 横濱刊

行ジヤパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

爰ニ大畧信スベシト思ハル、ノ説アリ其ハ先

頃迄 アヘン 在苗ノ英國公使エルスキン氏今北京

ニ在リテ全權公使ノ職ヲ畢ヘエルリヲソト氏

臨時使節ノ任ヲ蒙ルトノナナルカ是全ク天津

一件ニ付支那ト、條約ノ再考ヲ商議スル為メ

ナルベシ

天津暴殺ニ付テハ初メヨリ支那一般ノ説ニモ

此時天津ニ在ル官員ニ至當ノ罰ヲ行フハ道理
ニ取リテモ又ハ六月二十一日ノ如キ暴舉ノ向
後懲戒ト為スニ於テモ必ス急務トス可キトニ
シテ且支那ノ刑法上ニテモ死罪ハ免レ難キト
トス然ルニ方今其沙汰無クシテ唯、追放ノ罰ニ
落著シタルト聞及ヘリ是、余等ノ大イニ快ヨシ
トセザル所ナリ斯ク輕罪ノ仕置ノミニテハ其
不相当ナルトハ勿論ニシテ已ニ此時利公使ノ
書狀ニモ言ヒタル如ク若シ其仕置ノ愈行ル、

ニ於テハ何ゾ後來ノ暴行ヲ押ヘルノ戒メトナ
ランヤ偕一二ヶ月前ノ模様ニテハ其罰ノ行不
行等ニ就キ諸説紛々トシテ猶疑ハシカリシト
雖、臣余等ノ今考察スル所ニテハ必然支那政府
ニテ至當ノ罰ヲ行ガルヲ證スルニ足レリ其故
ハ往キニ天津ノ縣令并ニ副縣令同所ノ激徒ヲ
鼓舞シタル罪科トシテ滿州へ流移ト決シタリシ
カ内實之、カ歸國ヲ許セシトアリ又一ツニハセン
コーハンナル者攘夷ノ巨魁ナリトテ國人等常

ニ交^カ口ニ賞歎セシガ今度此人ノ論ニ固ヨリ外
國教師ニ辜ヲ負スルノ謂レ無キ由ヲ述タルヲ
以テ曾テ此人ヲ深ク愛スル國人等以前ニ引替
ヘ今ハ痛ク之ヲ譏斥セシト^レ己ニ近頃北京ニ
テ文科ノ試業アリテゼンコーハンノ男出席セ
シガ國人父ノ此事ヲ誹謗シ且同府ニ在ル江南
ノ党怒リテ此人ノ為メニ設ケタル賞典ノ掛ケ
札ヲ打碎カントシタリシカ友人等モ之ヲ制ス
ルヲ能ハザリシト

浙江福建兩省ノ總督インクイ并ニ福建ノ副督
サンカイテイ等ノ話ニ此度支那所轄ノ琉球ヨ
リ隔年上納ノ租税ヲ貢スル王使福州ニ到着セ
シカ唯上納ノ半高ヲ持越シタリト初メ支那政
府ニハ右使節ヲ悉ク北京ニ迎ントテ若干ノ導^イ
官ヲ命シタリ但シ船中乗組ノ人数總計百九十
人ニシテ其中長官二人外諸官員水夫等ナリ第
二ノ船ハ暴風雨ニ遇ヒテ厦門ニ漂ヒシ故用意
整ヒナバ再ヒ福州ニ來著マ可シ福州ヨリ北京

送使節ノ通路ニ在ル諸官員ヘハ政府ヨリ布告
ヲ以テ其通行ニ方リテ丁寧ニ取扱ヒ諸事ヲ護
助ス可キ由ヲ達セリ又第二ノ布告ニハ若シ諸
官員等事ニ遲滯シテ琉球人期限通り正月元日
ニ北京ニ到着セサルニ於テハ皇帝ノ震怒アル
ベシトノ事ヲ述タリ

是迄琉球人ノ來聘ハ正月前ニシテ未タ海上ノ
難ニ遇ヒタリシヲ無シ今年初メテ風雨ノ為メ
ニ時日ヲ遲延シタルカ故ニ必ス其期限ニ北京

へ達スルヤ否ヲ知ラズ

仙ノ所領東印度ノ殖民地ポンジセリイヲ
戦争ノ償トシテ日國ヨリ要メタル事

スピイクトイトルト云ヘル新聞紙ニ普仙和昨
ノ約條書中ポンジセリイノ譲リ渡シノ事ヲ記
載セリ余等此事ヲ英國人ノ聞ヲ以テ最モ恐ル
ベキ事トス意フニ盖世ノ卓量アリト聞ヘシビ
スマルク斯ク廣キ世界ノ中ニ僅カナル印度ニ
在ル立錫ノ地ヲ何等ノ故ヲ以テ要ムルヤサレ

氏彼ニ於テ固ヨリ世ノ譏リヲ受ク可キ事ヲ行
フ者ニアラザレバ縱令ヒ之ヲ得ルモ其目的ト
スル所ハ貿易ノ利ヲ計ルニ非ズシテ普國政治
ノ都合ニ出タルトナルベク故ニ之ヲ只管所領
トセンヨリハ寧_レ印度ニ足溜リヲ置クトニ在ル
ナラン

印度ノ中兼テ英人ノ密カニ掛念スル所ノ新夕
ナル土地アリケレバ普國_レポンジセリイヲ要ム
ルニ就キ其地方今殆ント騷擾ノ由テ起ル樞軸

トナル可キ形勢アリ然レ_レ普國ニテ此地ヲ望
メルハ彼ニ於テ主張スベキ道理アルヲ以テ其
騷動ハ無ルヘキカ且其難ヲ避ルハ普人ノ随意
タルベケレ_レ氏其時遂ニポンジセリイ恐クハ英
國ニ敵スルノ手段トナルニ至ラン

日國_レポンジセリイヲ要ムルハ固ヨリ仏國ニテ
彼是ノ論ヲ發スル能ハサルベク又英國ニ於テ
モ日國ノ存意ヲ支ルカ為メ仏國トノ條約ヲ強
ヒテ執行セントニハ百官議院ノ許サバル干戈

ヲ動スニ非サレバ為ス能ハズ又日人ノ方ニ於
テモ是迄ノ條約ヲ破ラント欲セバ英國ノ方ニ
キヤトムノ如キ勇略アル者ノ出テザル以前速
カニ其所置ニ及ハスンバ其志ヲ遂ルヲ能ハシ
サレトモタイムス新聞ニ述ル所ハ之ト反シテ苦
々シキ事共多ク其説ニポンジセリイ縱令一旦
日人ノ所有トナルトモ英人ノ之ヲ取ンコハ自
ラ掌中ニ在リトソ余等以為ラク此地ヲ再ヒ攻
メ取ルハ固ヨリ容易ナラザルコトニテ若シ普將

ウオンウヘルテルノ如キ勇將ノ大約一万ノ兵
卒ヲ指揮スルコトアラバ我印度屬地ノ兵ノ半バ
ナルニ万ノ歐兵ヲ要スルニアラザレバ決シテ
之ニ敵スルヲ能フマシ且其時印度地方ハ争戦
ノ巷トナリテ如何トモス可カラザルノ景況ニ
至ル可シ且タイムス新聞ノ説ニテハハイトラ
ハット并ニマイソール印度ノ土地兼テ虚ヲ窺フ土人
共英人ノ十分備ノ整フ迄手ヲ懐ニシテ傍觀ス
ル者ト思ヒシヤ又己ニ凡百年間英國ノ權威ニ

歴服セラレテ已カ権カヲ伸ブルノ念ヲ絶チシ
者ノ今英人ヲ助クベシト思ヒシヤ又一千七百
六十年ニ於ル争擾ヲ再發シテ英普亞細亞ニ於
テ戰フトモ其間歐洲ノ國々ハ和平ナル盟約ヲ
為スコシト思ヒシヤ且ホシジセリイ一旦日人
ノ所有トナラバ英人之レヲ攻ムベシ然ラハ漢堡
日耳曼ノ都府モ何ソ同シ所為ニ出サルヲ無ラサラン
ヤ故ニ若シヤ此舉アルニ於テハ實ニ一大難事
ヲ惹出スベシ是議院モ國民モ不承知ナルニ依

テ其證推シテ知ラル可キナリ余等苟モ現今ノ
如ク枕ヲ高フシテ安穩ナルヲ思ハバ些シク
不快ノ一アルトヒ忍ブ可キニ如カズ



タイムス新聞ニ載セタルボンジセリイノ
事

タイムス新聞ニ曰クボンジセリイノ所有ノ事
ニ就キテ余等平心子細ニ考ル所ニテハ此地縦
令何レノ國ヨリシテ之ヲ領スルトモ我英國ノ
印度所轄ハ對シ害ヲ生スルノ兆アルニ於テハ
一二週日ヲ出スシテ英國ノ之ヲ取りテ有スル
ヲ容易ナル可シ
借或説ニボンジセリイハ殖民地ノ中ニテ第三

等ノ品位ニ在者ニシテ最好港ニアラス海岸ハ
浅クシテ常ニ激浪多キカ故ニ此所へ大船入来
ル能ハス唯端船ヲ以テ人負上陸及ヒ諸物ヲ陸
揚セリトソ是全ク不穿鑿ノ説ニシテ何カ其趣
意アルヲナル可シ元来ボンジセイノ海岸ノ
浅瀬ニハ石ニテ建築シタル築地アリ此邊々テ
ハ巨大ノ汽船自在ニ入津シ人負上陸及ヒ諸物
ヲ直チニ陸揚ケスルヲ得ルハ同シ海岸續キ
ニテ此所ヲ去ル凡ソ八十里ノ距離ナルメトラ

スニ於ルカ如シ斯事實ニ暗キ旅行記ナトハ固
ヨリ信ヲ取ルニ足ラス曾テ千六百七十二年ノ
後仏人ボンジセイイラペジヤポトル_{印度地}王ヨ
リ請取リシガ之レヲ永續スル能ハスンテ其後
千六百九十二年ニ和蘭人又之レヲ攻取レリ同
九十七年ニ仏人再ヒ之レヲ復シ同々七百四十
八年ニ英人之レヲ囲ミ同六十一年ニコロ子以
クートノ率ヒタル軍勢ニテ攻取リ同六十三年
ノ和睦ニテ仏人ニ復シ同七十八年十月又英國

海外新聞
四二

ノモン口君ノ軍ニ降り同八十三年ニ復シ同九
十三年ニ取ラレ同八百三年ニ再ヒ取ラレ同十
五年ニ復シ其後方今ニ至リ仙國ニテ復將サニ
之レヲ失ハントスル機會ニ在リト雖凡意フニ
他日仙人尚之レヲ回復スルノ期ヲ得ルナル可
シ其時ニ至リテ此地ノ確乎平定センコトヲ希望
ストナリ

海外新聞四十一号畢

御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋書肆

藏版

辛未三月十四日

海外新聞
四十二號

定價三錢

中外堂
發行記

海外新聞四十二號

横濱刊行 ジヤツパン ヘラルド 新聞ヨリ抄譯

ス

戦争新聞

リュウトル氏傳信線報告

千八百七十一年第三月十九日 我正月廿九日 倫敦ヨリ

兩三日以前ニ巴勒大ニ動搖シ府内ノモンマ

トルベールウィルフォーブルアントワーヌ等

ノ諸街ハ一揆党皆其往来ヲ止メタリ○ルコン

トクレイムトマス等ノ諸将一揆ニ砲銃ヲ打
掛ケラレタリ

巴勒府内ノ政府ノ兵一揆党ノ大砲四十門ヲ奪
取リシカ其中五門ハ容易ク一揆ニ取返サレタ
リ○其兵ノ将帥タルウイノワハ兵ヲ率井テ塞納
河ノ左岸ニ引取り府内ニ残リテ一揆ヲ鎮壓ス
可キ兵ハ民兵ノミナリ
仏政府ヨリ民兵ニ布告シテ曰ク今一揆党騷擾
シテ巴勒府其厄難ヲ蒙ル可キ形勢ナルニ因リ

宜シク勉勵シテ其党ヲ鎮定スヘシト

第三月二十日 我正月三十日 倫敦ヨリ一揆党猶府内街

巷ノ往来ヲ止メゼ子ラールシマンジイヲ捕ヘ
タリ

巴勒民兵ノ士官中ヨリウエルサイルニ在ル仏政
府ニ使節ヲ送りウイノワバラヂーシヘルリ一等
ノ諸将ヲ退ケテングロウアダムドノウ等ノ人
々ヲ将帥ニ任ス可キヲ請ヒシカ政府ニテ之
ヲ許諾シランゴロワヲ民兵ノ惣督ニ任シタリ

三月二十二日 我二月 倫敦ヨリ巴勒ニテハ一
揆党猶動揺ス○民兵ハ府外ノ砲砦ニ入レリ○
一揆ノ騷擾猶數日間止マサル時ハ普兵過日巴
勒ニ在リシ頃屯集シタル地ニ復ニ返リ來ル可
シ○巴勒刊行ノ新聞紙ニハ皆暗殺ヲ制ス可キ
トヲ記シタリ
巴勒稍平穩トナレリ○普人巴勒ニ食料ヲ運輸
スルトヲ禁ス可シトノ評判アリ○日帝其國ノ
大會議ニテ告諭シタル言葉ニ日國ハ他國ノ獨

立自由ヲ妨クルトナシト
三月廿三日 我二月 倫敦ヨリ巴勒ノ一揆過日
市民三十人ヲ銃殺シタリ然ルニ本日ハ一揆追
々鎮定ス可キ様子ナリ
三月二十五日 我二月 倫敦ヨリウェルサイルノ
會議ニテ義勇兵ノ隊伍ヲ定メ其規律ヲ定ム可
キトヲ決議シタリ
巴勒ノ騷擾佛蘭西ノ諸州郡ニ波及セリ○巴勒
ノ鎮撫掛リヨリ命ヲ下セシニハ日兵再ヒ巴勒

ニ返来リテ其近傍ノ地ニ砲臺ヲ設ク可シト
 第三月二十六日我二月六日倫敦ヨリ巴勒ノ一揆党
 ヨリ一揆ヲ起セシ道理ヲ述タル布告書ヲ出シ
 メムチ、ガリバルヂ高名ナルガリバルヂノ子ナリヲ惣督ニ任
 シタリ○日兵ハ再ヒ巴勒近傍ニ返来リテ屯集
 シ己ニ巴勒府内ニ大砲數門ヲ運入レタリ
 第三月二十九日我二月九日倫敦ヨリ巴勒新聞紙ノ
 中ニ仏國ノ為ニ忠節ヲ竭サントスル者ハ貴族
 ヲ殺ス可シトノ説ヲ記シタルモノアリ○此迄

ノ一揆鎮撫戢リハ廢止セラレ新ニ之ヲ任シタ
 リ○仏國為替座ヨリ一揆党ニ五十万フランク
 ノ金高ヲ出シタリ○巴勒府議員ノ選挙ハ無事
 ニ濟ミタリ尤モ撰任ヲ得タル者ノ中大半ハ共
 和政党ナリ

外國ニ在ル日本ノ貴顯

日本皇帝ノ叔父ニテ後日々本ノ帝位ヲ嗣ク可
キノ理アル東伏見宮ハ我英國外務局ニテ丁寧
ニ待遇ヲ受ケタリ○我外務執政ロードグレン
ウイールハ此皇族ヲ迎ヘテ本月二十一日我朝ニ
日ニバロンシーボルト、共ニ我女主面會ノ事
ヲ相談シタリ○此レガ為メニ此皇族並ニ其附
從ノ者不日ニ倫敦ヲ發足ス可シ蓋シ此皇族ハ
五ヶ年ノ間歐洲ニ留學ス可シトナリ

日本會計執政伊藤氏采利堅會計ノ方法ヲ知得
セソカ為ニ今度米國ニ至リシカ大紗領ニ面會
シタリ伊藤氏歸國ノ前多分歐洲ニ至ル可シ

北京ヨリ得タル慥ナル新聞ニ不日ニ支那政府
ニ大變革アリテ恭親王其權ヲ奪ハレ洋人ヲ嫉
ムノ徒政權ヲ握ル可シト○佛公使ロシニシユワ
ール氏ヨリ水師提督ニ砲艇數艘ヲ天津ニ差送
ル可キヲ言送りタリ

香港ト上海トノ間ニ海底傳信線ヲ通スルヲ既
ニ成功ニ至リシカ支那船ノ礙ノ為ニ切斷セラ
レタリ因テセルラ船其修履ノ為メ早速出帆シ
タリ

北地傳信線會社ニテ二千五百噸積アフリカ名
号船ヲ雇ヒ魯西亞ウラゲワストックヨリ長寄迄
海底傳信線ヲ通セントス又クレートノ一セル
ニ名号船ハ二週内ニ支那ニ着シテ長寄ヨリ上
海ニ至ル迄英法千二百里間ノ海底傳信線ヲ置

ク可シ○此等ノ船ハ蘇士堀割ヲ通り新嘉坡香
港ニ立寄ル可シ○都合ニヨリテハ第七月十五
日_下俄_五月頃ニ傳信線全ク成功ニ至ル可シ是既
ニ魯國首都ヨリウラヂワストック迄陸路ノ傳信
線アルヲ以テ倫敦ヨリ上海迄傳信線ヲ通スル
一容易ナルニ回レリ○上海ヨリ香港迄ノ傳信
線ハ第四月中_上我_五月ニ出来ス可ク又新嘉坡ヨ
リ香港迄ノ傳信線モ大抵同時ニ成功ス可シ又
澳大利亞及瓜哇_哇爲ニ通スル傳信線モ數月ヲ出

テスシテ出来ス可シ
香港ヨリ暹羅_惹棍_マニラ等ノ地ニ通ス可キ傳
信線モ多ク不日ニ取掛ル可シ

魯西亞ノインウエリット新聞ニ千八百七十年中魯
國ノ兵數大ニ増加シタル旨ヲ記シテ謂ラク千
八百六十九年ニハ兵數七十二万六千ナリシガ
千八百七十年ニハ其數ヲ増シテ七十四万四千
トナシ且ツ專ラ兵士ノ熟達ニ注意シタリ又其

兵ハ新製ノ尾裝銃ヲ所持シ若シ戰時ニ臨ミ大ニ兵數ヲ増スト雖モ其銃數決シテ不十分ナルヲナカル可ノト又砲兵ニハ尾裝ノ九斤砲トミトライユーズ砲トヲ備ヘ皇帝ノ親兵及ヒ國境ニ屯スル兵ニモ亦既ニミトライユース砲ヲ備ヘ其他ノ兵ニモ一年內ニハ其種ノ砲ヲ備フ可シト○當時英吉利ニテ魯政府ノ為ニミトライユーズヲ製出シ又甲必丹ヲルヂ子ハ魚テ魯ヨリ米ニ訛ヘ置タル回旋銃二万箇ヲ本國ニ引

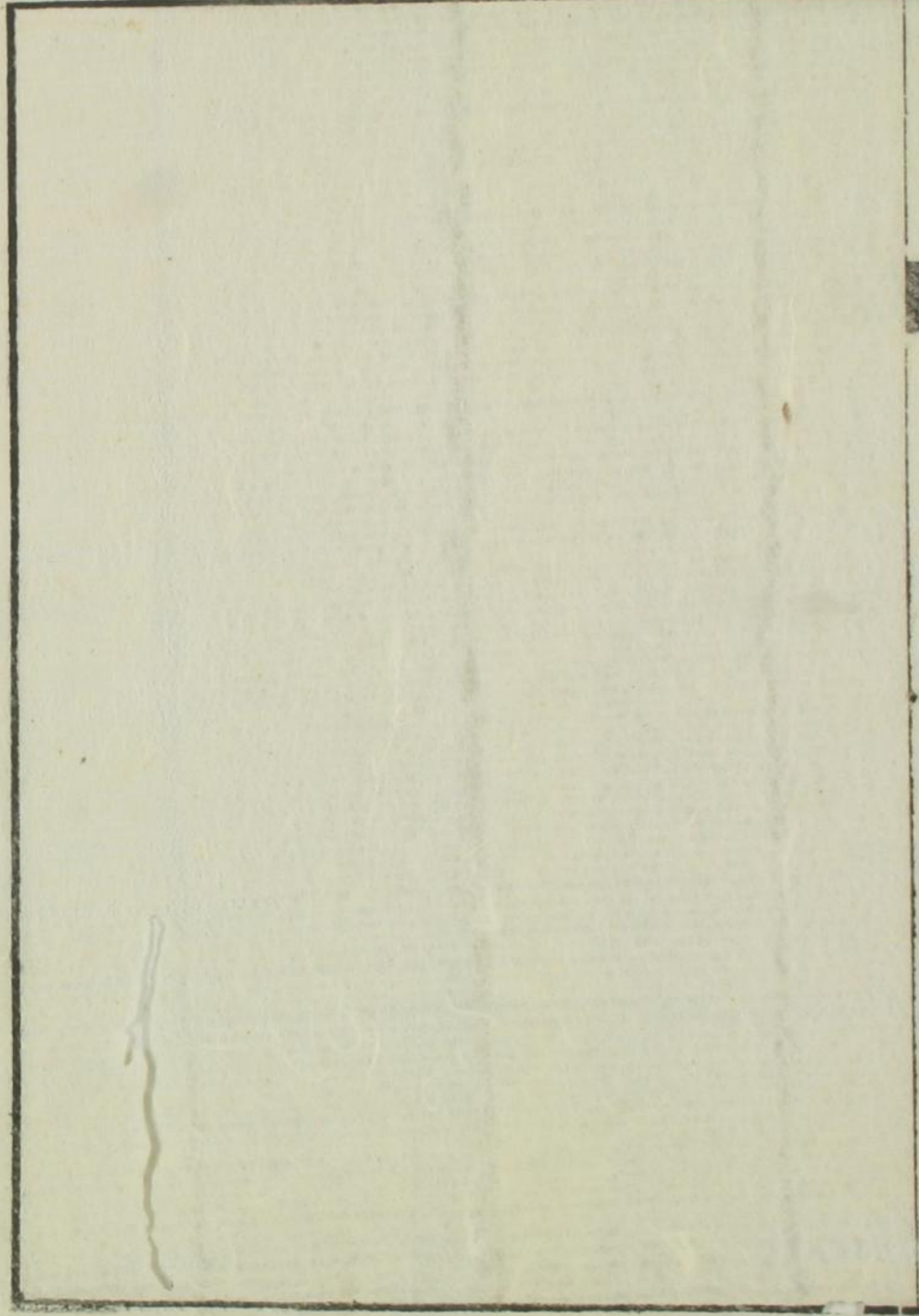
取ル可キ為ノ米國ニ發見シタリ○此度皇帝ヨリ允准ヲ得タル新法ニテハ舉國在齒二十一歳ノ者百スニ付二十五人ノ割合ヲ以テ年々召募シ海陸軍ニ入ラシム可シ但シ其服役ノ年限ハ七年ナレドモ治平無事ノ時ハ兵卒ノ定員ヲ滿ツルニ足ル可キ程ノ期限ニテ兵籍ヲ脱スルヲ得ヘシ

英國ヨリ巴勒ニ食料ヲ輸シタ贈リ來レルニ目

リ巴勒ニテ其府内ニ食料ヲ供給スルニ付_レ行政
 府ト契約ヲ為シタル者モ此事ニ付別ニ利益ヲ
 得ルニ及ハサル旨_ヲ行政ニ申出シタリ依テ
 巴勒ノ新聞ニ此事ヲ評シテ曰ク英ハ我國ニ食
 料ヲ送り越シ我飢渴ヲ救ヒタルト我會計局ノ
 為メ七百万_ヲランクノ儉約ヲ生シタルトノ厚
 賜ヲ我國ニ與ヘリ

巴勒ノ降祭シタル時猶八日分ノ蒸餅ト内トヲ

貯ヘタリ蓋シ其八日ノ内ニハ府内ニ在ル馬數
 二万六千五百頭ノ内五千七百頭_ヲ屠ル可シ又
 其餘ノ二万千三百頭ヲ毎日三千頭ノ割合ヲ以
 テ屠ラハ更ニ一週日間ノ食料ニ供スルニ足ル
 可シ之ニ由テ考フレハ巴勒府士民極メテ困難
 ナルニ耐フルノ氣カアラハ猶十五日間ニ敵ヲ
 防ク_ヲ得タルナル可シ



エコーサユジャポン新聞ヨリ抄譯ス

千八百七十年第十二月三十日

我
去
一
月
九
日

蒙徳維

罷ヲヨリ南亞米利加カ鳴カ拉カ乖カノ首都蒙徳維罷ニテ

兼テ騷擾アリテ一揆党其都ヲ囲ミタリシガ政

府ノ將シユアレスナル者三千五百人ノ兵ヲ以

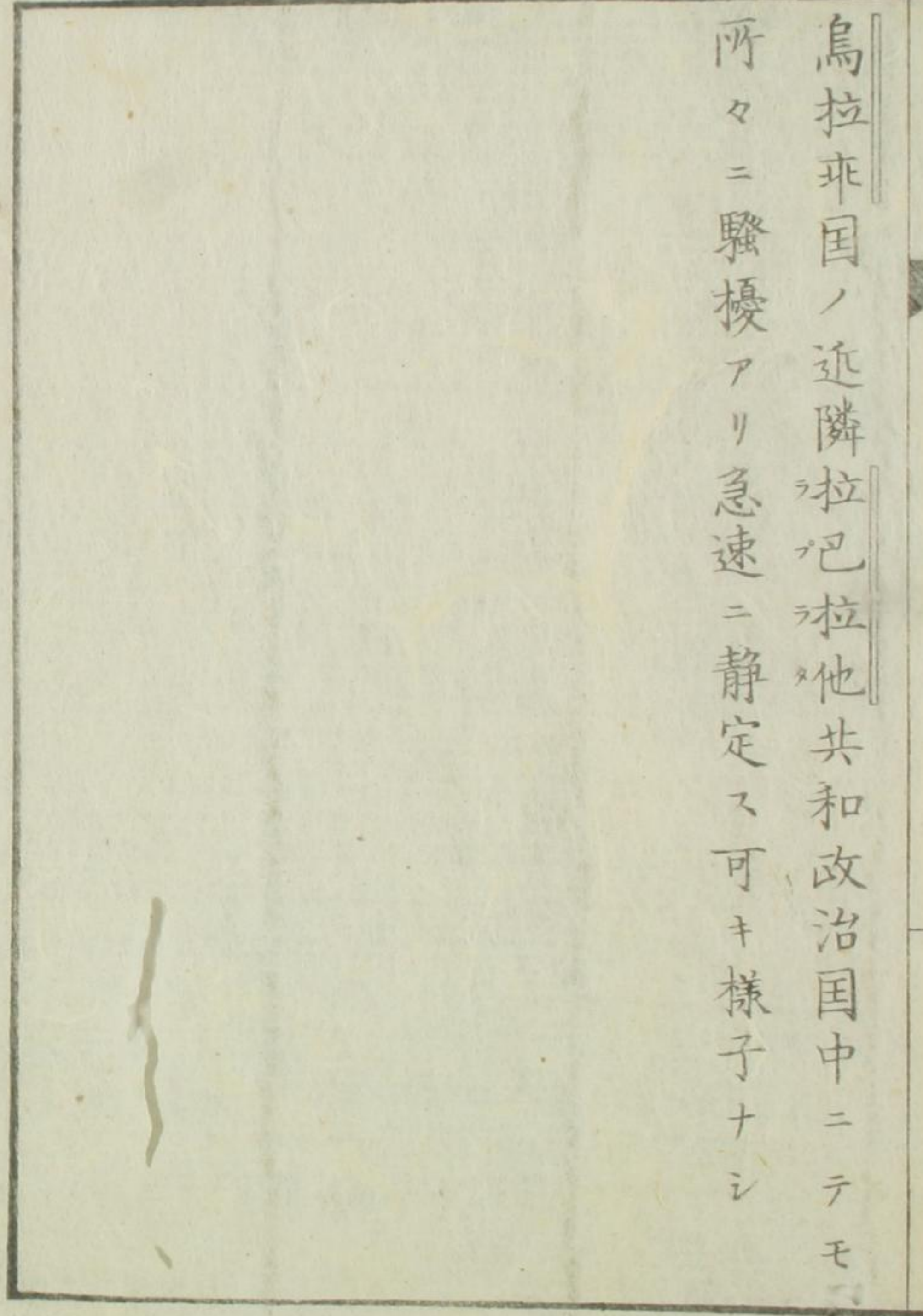
テ一揆党ヲ撃チ劇戦ノ後犬ニ之ヲ敗リ一揆ノ

頭タル者ハ所々ニ脱走シタリ因テ全国再ヒ平

穩トナリテ商業ノ隆盛ニ至ル可キヲ衆人ノ望

ム所ナリ

烏拉班国ノ近隣ラ巴拉他共和政治國中ニテモ
所々ニ騷擾アリ急速ニ静定ス可キ様子ナシ



千八百七十一年第四月二十一日 我三月
二日 横

濱刊行 ジャッパンヘラルド新聞ヨリ抄詳

維也納ヨリノ報告ニ日本貿易事務掛リ長官某

シユイタ候ト共ニ其府ニ来着シ當分在留ス可シ

トナリ

英ノ官報ニ以来陸軍ニハ惣テマルチニヘンリ

イノライフルヲ用ヒ又海軍ニハバ子ットノ附キ

タル同上ノライフルニテ更ニ短キモノヲ用フ

可シ

英ノ海陸軍新聞ニ曰ク魯ハ支那海ニ小砲艇数艘ヲ備フルト雖氏英ノ水師提督ケレットガ指揮スル小艇ハ皆既ニ腐壞シ万一事起ル時ハ何ノ用ニモ立ツマヅキトナリ

米利堅使節朝鮮ニ至リ條約ヲ結ハントスル事

米ノ水師提督ロゼルスガ指揮セルコロラド名号兵船洋子江ロウソン港ニ着セリ其兵船ハ米使節ロウ氏ノ着次第ベニシヤアラスカバルラ等ノ兵船ト共ニ朝鮮ノ方ニ赴カントセシカ

折節朝鮮ノ漁艇五艘難風ニ逢ヒ米ノ水夫ニ救ハレシモノ天津ヨリ来レルヲ以テ米船ハ之ヲ水先案内トシテ朝鮮海ニ至ラントス

方今日耳曼ニテ貴賤共ニ此度ノ戦ニ一族中一人モ死傷ナキハ稀ナリトソ第四番隊ノレシメントトノ中ニハ士官ノ死傷十分ノ一二過ルモノアリ又クイーンズガード並ニシュウチエンス隊ハ其人數過半ヲ失フタリ

○薩索泥国ノ兵ハ士官ノ死傷二百五十五人兵卒ノ死傷七千人程ナリト云フ

倫敦マシヨンハウスニテ仏ノ窮民ヲ救恤スル社中集會シ倫敦府ノ府長其上席人トナレリ其時社中ヨリ出セシ金高拾万九百八十五ポンドナリト云フ

我五十万兩餘ニ當ル

伯靈ノ新聞ニ曰ク拿破崙ハ日帝ヨリ向後布告文議論等ヲ出シテ仏ノ政ヲ誹議ス可カラス且慎ンテ囚虜ノ法則ヲ守ル可シトノ譴責ヲ受

ケタリ又日帝ヨリ拿破崙ヲ嚴重ニ取押ユ可キヲ命シタリト云フ

海外新聞四十二号畢

海外新聞四十三號

千八百七十一年第四月廿六日
我三月七日 橫濱
刊行ジャッパンヘラルド新聞ヨリ譯出ス

電信報告

第三月廿日 我正月三十日 倫敦ヨリタイムス新聞特報
ニ云フ方今巴勒ノ府人ハ頗ル頑愚ニ為リタル
跡ナリ仙將ルユントハ其兵士ニ棄ラレ捕獲セ
ラレタリ又トーマスハ執ヘラレテブレーションニ
於テ銃殺セラレシカ其死ニ臨メル時ノ言ニ怯

夫輩ヨ亡状ナリト云ヒテ第三ノ銃丸ニテ斃レ
タリ○チール氏ハ断然不撓ノ様子ナレトモ心
中快々憂愁ヲ抱ケリ冬仙將冬グノイハ憤懣殊ニ甚
シ

テレグラフ新聞特報ニ云フ土曜日我正月廿八日ニ府

衛兵銃砲ヲ發シテ一揆党ナル因衛兵ヲ撃テリ

因テ國衛兵ヨリモ發砲ニ及ヒ互ニ死傷アリガ

井ノイハ一揆ノ為ニ罷ハレテ敗セリ一揆党ハ

勝利ヲ得テ現ニ本府巴勒ヲ領セリ府中ニテ鋪

店ヲ関キ居ルモノハ唯酒店ノミニテ強飲乱酔

者街衢ニ滿チ婦女モ皆兵器ヲ帶シテ往来セリ

仙將シヤンジイ到着シモンマルトルノ一揆人ニ

依テ蒸氣車ノ站場ニ於テ執ラヘラレ今日銃殺

セラルトノ風説ナリ貴族富家等ハ巴勒ヨリ

逃出ル者夥シ

巴勒ノ日誌ニ云フモンマルトルノ陣營土曜日

我正月十日打破ラレ將ニ其大砲ヲ移サントセシ時

國衛兵来テ兵士ヨリ之ヲ奪ヒ返ヘシ且之ヲ夾

撃シテ追卻ケタリ銃殺セラレタル大将等ノ死

骸ハ支分體解セラレタリ

第三月二十日我正月三十日巴勒ヨリ一揆党等ホテル

ドブ井ルバレイドジヨスチスチイルリイブラス

グエンドム等ニ扱レリ方今府人ハ総テ狂セル者

ノ如シルコント及ビトーマスヲ殺セシハ一

揆ノ大将リコッチガリバルヂノ指揮ニ依レリ両

人共リユーテロシールノ園中ニテ銃殺セラル此

時トーマスハ死ヲ肯ゼスシテ痛ク之ヲ抗拒セ

シカバガリバルヂ兵卒ニ命シトーマスヲ壁ニ

押付置テ銃殺セシメタリルコントハ巾ヲ以テ

眼ヲ掩フトヲ用ヒズ被容トシテ烟草ヲ喫ナカ

ラ死ニ就ケリ此外刑ニ処セラル者多シ政府ヨ

リ電信機ヲ以テカムプサルトリーニ在ル三万

ノ兵ヲ巴勒ニ呼上タリサンテニアル普

軍ハ守兵ヲ増シテ四万ニ過ルナラハ巴勒府ニ

入ルナル可シ又府中ニハ拿破倫党ノ管事者多

ク一揆党ノセフローコンチルルレギール等

四五日前ニ此管事者ヨリ出セシ由ノ金幣ヲ受
取タリ新聞紙ニハ大将等ヲ殺セシトテ謗リ且
國會ノ政治ノミヲ是トセリ又現今ノ形勢ハ永
ク續ク可カラサル由ヲ云ヘリ衆説紛々トシテ
一ナラフ或人ノ説ニハ國衛兵ハブエルサイルニ
進マシトテ欲セリト云フ又一説ニハ國會ノ者
オルレアンニ移ルナラント又大将ハイデルブル
命シテ總管ト為サントスルヲ云ヘリ取締ノ
本營ニ在ル所ノ諸圖書等ヲ國衛兵皆之ヲ破壊

セリ
ゴローア新聞ニ云フモニマルトルノ一揆党コ
リ政府へ解和ノ建議ヲ呈シ内國務宰相ヲイ
ヒシ寛大適宜ノ處置ヲ許ス可キ旨ヲ任セラレ
タリ
エトアルベルグ新聞ニ左ノ報告ヲ載セタリ巴
勒府ノ一揆党ト解和ノ談判アリシト云フ一ハ
虚説ニテ一揆党ハ其勝利ニ乘シテ府中ヲ横行
シホテルトブヰルノ戸口ニハ國衛兵等兵器ヲ持
町奉行所

毎卜行門
四

シテ固メ居タリ府人ニシヤセツホー銃ヲ分配シ一
 揆党声々ニブエルサイルへ押寄ント躁キアヘリ
 サレトモ巴勒府ノ中心ハ穩ナル様子ナリ
 第三月廿日我正月倫敦ヨリ三十日蘆森堡ノアブエニル
 新聞ニ云フ仏人蘆森堡人ヲ惡メルハ凡說程
 ニハアラス蘆森堡人ヲ巴勒府ヨリ退出セシニ
 ハアラス人々ノ望ミニ任カセ其郷里ニ皈ヘセ
 シナリ仏國ノコンシユル官ハ其証書ヲ廢セシ
 ニ純テ蘆森堡ノ會議官等ノ總テ其責ニ任スル

トヲ免セリ

同日巴勒ヨリロイブランクスクルセル等ノ
 布告書ニ云フ巴勒及共和政治黨ニ人民ノ相當
 ナル志願ヲ満足セシム可キ良策ヲ知ラシメン
 ト欲シ國會ニ之ヲ建言セントスルヲ云ヘリ
 其一ハ府人總体ヨリ選擇シテ本府評議官ノ長
 官ヲ定ムルナリ

第三月二十一日我二月倫敦ヨリタイムス新聞
 特報ニ云フ日曜日我九月ニ銃殺セラシ者多

クアリ國衛兵等チイル氏フ^井ノイ氏オ^レル
氏ヲ若シ其手ニ執フルナラハ銃殺セ^ンヲ欲
ストゾ府民ノ伊^讚アル者モ一揆黨ヲ惡ム者頗
ル多シ
フェルサイルハ陣營ノ影^澁ニ似タリ其近傍ニハ
要害ノ地ヲ擇ンテ兵ヲ備ヘ又^ツ及セ^タニ
テ降虜トナリ復^ビ飯^リ来^リシ者又軍役ニ加ハ
ラ^ンヲ願ヘリ
府中ハ諸州ヨリノ議員羣集シテ夜ハ旣中ニ睡

ルニ至レリ國會ニハ激黨ノ者無シ巴勒府ト和
ヲ講スルノ委任官ヲ命セラレタリ定メテ^調議
ノ決定アルナル可シビカルド氏ハ^セイン及^才
ア^スノ地ヲ圍中ノ地ト布告セ^ンヲ^建言セリ
但シ此布告出レハ其地ノ人民罪アル者ハ常例
ノ^査問ヲ經スレテ直チニ刑セラル、ナリ○^拿
破^崙黨ナルル^ルエ^ルハ^ブロ^ンノ地ニテ^拘ヘ
ラレシガ辛ウレテ暴法ヲ以テ刑セラル、^トヲ
免レタリ其妻及ヒ女モ亦捕ヘラレ其他^ブロ

シニ在ル拿破崙黨ノ者多ク捕ヘラレタリ
第三月廿日^{我正月}巴勒ヨリ府中ノ形勢依然ト
シテ別ニ變レルヲ無シ新規ノ^防障^胸壁等處々
ニ出來キ乘合馬車ノ渡世ハ全ク止ミタリ
一揆黨ノ委任官ヨリ月曜日誌ノ中ニ共和政治
官報日誌ト題シテ官報新聞ヲ出セリ之ニ載セ
タル言ニ云フ國衛兵從來ノ二百十五大隊ハ騷
擾ヲ好マス然ルニ政府ニテハ巴勒ヲ罪シ諸州
ニ警ス且強テ余輩ノ上ニ將帥ヲ置キ又夜ニ乘

シテ余輩ノ兵器ヲ奪ント為シ又財本ヲ移シ去
リ穢血ヲ以テ共和政治ノ聲名ヲ浼サントセリ
國衛兵ハ毫モ罪惡ノ所業ヲ為サスト又布告シ
テ選舉ノ日ヲ水曜日^{我二月}ト定メ選舉終リシ
後ハ委任官ノ者ハ威權ヲ讓ル可キノ旨ヲ云ヘ
リ
委任官ハ斷然トシテ共和政治ノ為ニ和時ノ反
條約ヲ守ル可キニ決心ヤリ又諸州郡ニ檄シテ
速カニ之ニ與センヲ勸メ新聞局ニ諭シテ共

和政治及正實ヲ主トス可キヲ唱ヘタリ國中
大赦ノ布令アリ政廳ハ一部分廢止セラレタリ
委任官ヨリ布告シテ大將等ヲ刑セシハ其關リ
シコト非サル由ヲ述タリ
佛國為替座ノ金銀錠ヲハズルサイルニ移レタ
リ未タ發行ニ為ラサル紙幣ハ皆破壞シ棄タリ
軍局日誌ニチールハ騒亂ノ首本ナル由ヲ云ヒ
且ク々克巴剛毅平穩ヲ守ル可キノ旨ヲ諭セリ
同日巴勒ヨリ一揆黨ノ政府ヨリノ布令首府ノ

防禦ノ為ニ諸堡砦ハ速ニ兵器ヲ備フ可レト云
ヘリ又チールニ國會者ニ二十三日迄ニ巴勒ニ
皈ル可キ由ヲ云ヒ贈リ且此期日ニ皈ル時ハ其
儘ニ免ズ可レ若レ之ヲ拒マバ國衛兵速ニフェル
サイルニ進軍レテ之ヲ追散ラス可レト云ヘリ
フェルサイルノ政府ヨリ諸州ノ知府ニ檄文ヲ傳
ヘテ巴勒形勢ノ惡キヲ告ケ且曰フ此度ノ改革
ハ其一揆黨ノ暴行ノ為ニ障礙セラレ人々皆之
ヲ惡メリト又佛將シャンシー等ハ猶一揆黨ノ為

ニ捕へ置カレタリサレトモ不日ニ免レサル可
キ様子ナリ巴勒ノ府長ハ黨與ノ者ヲ選擇スル
ノ不當ナル命令ヲ拒ンテ之ヲ布告スルヲ
肯ンセス

佛將シャンジイノ隨意ニ多クノ人ヲ執ラヘ又ビ
クロノ新聞及ゴローア新聞ヲ禁セシト等ニ依
テ人民大ニ不平ナリ昨日ノクレゼイノ議論
ヲ聞テ感奮スル者頗ル多レブルサイルノ政府
ニテハ速ニ騷擾ヲ鎮定センヲ決セリローア

ンノ會議官等ヨリモ政府ニ建言シテ巴勒ノ擾
乱ヲ嘆キ速ニ之ヲ鎮定スルノ策ヲ施ス可キヲ
請ヒ且之ヲ鎮ムルノ助ケヲ爲ント約セリ又之
ニ同シキ建言ヲ既ニブルサイルニ呈進セシ人
有此等ノ建言ハ一揆ヲ起セル職人輩ノ爲ニハ
必ス良劬アル可シ一揆党ヨリ人民ヲ動搖セシ
メントノ布告ノ寫シ書ローアンニ於テ取上ラ
レ之ヲ公布スルヲ禁セラレタリ
同日ブルサイルヨリチエンブルノ近傍ニ二万ノ

兵卒アリ國會ノ者ヨリ委任官ヲ出シテ形勢ヲ
察シセイ^ン及ヒ^テア^スノ諸州ヲ田中ノ地ト為
ス可キ^コヲ命セリ

第三月十九日我正月廿九日比律悉比耳時ヨ^レエトア

ルミ^ルルゲ新聞ニ^ニ仏國ノ政府ニテハ五分ノ利息
ヲ以テ二万々フランクノ貸金ヲ借ラント日國
ノ富人ロツチルドニ約セシ^コヲ載タリ

第三月廿日我正月三十日倫敦ヨリ拿破崙昨十九日ノ
午時比ニウヰルヘルムシェーヘ^テ出立シ日兵二小

隊ヲ以テ之ヲ警衛扈從セリ斯クテ今午後一字

ニ英國ノド^ーブルニ到着セシニ群集ノ者皆之

ヲ祝セリ其中ニハ^ニ仏國ヨリ乱ヲ避テ此所ニ来

リ居シ人モ多クアリシ○^ニ仏國ヘ英國ヨリ貸金

ノ談判ハ暫ク延引ノ風説アリ

仏國一揆党ノ舉動ハマルセイ^ル、リオン及ヒボ

ルド^ー迄モ波及セシ由ナリチール氏ノ建タル

政府ヲツールニ遷サン^コヲ謀レリ日耳曼軍ハ

仏國ノ内務ニ預ル^コヲ肯セサルノ説アリ

千八百七十一年第四月二十八日 我三月九日 刊
行横濱新聞ヘラルドヨリ譯出ス

電信報告

第三月廿三日 我二月三日 倫敦ヨリコウントビスマ

ルクハプリンス 我二月三日 爵ヲ受タリ

第三月廿八日 我二月八日 巴勒ヨリフェルサイルノ國

會ニテハ府人ノ撰舉ヲ廢セントノ議ヲ布告ス

ルコヲ肯ンセスチール氏ハ共和政治ヲ覆クダサン

トノ策ハ断シテ之無シト云ヘリ○プリンスビ

スマルシハ巴勒府ヲ據有スルノ議ヲ幾度モ反
復シテ言出セトモチール氏ハ固ク之ヲ拒メリ

○ロアルノ知府ハ暗殺セラレタリ

同日倫敦ヨリ拿破崙ハ昨日英國女王ブキクトリ

アラ訪ヘリ

人民十六万人巴勒府ヲ立去レリ

フェルサイルノ政府ニテ巴勒府ヘ馬及ヒ食料等

ヲ入ル、コヲ禁シタリ

巴勒トフェルサイルノ間ノ通路ハ既ニ絶エタリ

タイムス新聞ニ云フ昨晚チール氏日軍ニ五十
萬フランクノ金ヲ與ヘテ日軍援兵ト為リ北方
ニ赴ク可キヲ約セリ

魯西亞ノ宰相ゴルチャコフハ黒海一件ノ勤勞ノ
賞トシテハイ子ツスノ尊称ヲ受ケタリ

第三月廿九日我二月九日巴勒ヨリ日軍ハ尽ク巴勒
ノ近傍ニ集リ来レリ

チール氏ハ專ラ精兵ノ編制ヲ務メテアリ八日
ノ内ニハ巴勒へ進軍ニ及フナル可シ

第三月三十日

我二月十日

倫敦ヨリタイムス新聞ニ

云フ日軍ハ巴勒ノ守兵ヲ増シテ八萬人ニ至ラ
シメン為ニ諸方ヨリ集リ来レリ

仏ノ政府ニテハ仏將ジャンジイデュケロトロシユ
レレフロール等ト評議シテ巴勒ヲ攻ントヲ謀レ

リ多冬二週間

十四日

ニハ之ヲ行フナル可シ

第四月一日

我二月十二日

倫敦ヨリ昨夜議事上院ニ於

テ天津暴殺一條ニ就テ議論アリオールカルナ
ルホンハ條約ニ隨テ其地方官ヲ責ニ任シ置ク

ノ議ヲ主張セリ其説ニ交渉和親ノ事ヲ盛ンニ
センニハ辞令ヲ巧ニシテ兵カヲ恃ム等ノ弊
アラントヲ恐ルト云ヘリ

アールグランプネルノ説ニハ天津ノ暴殺ハ全ク
土人等童兒ヲ勾引スルノ風説ヲ信セシト弘法
使等ノ慎マサリシトヨリ起レリ仏国ヨリ以後
弘法使ノ所業ヲ止メスンハ外国人一同ノ危害
ニ至ル可シ且コンシユルヲシテニストルニ関
係ナク戦争ヲ布告スルヲ許スハ失錯ナリト

云ヘリ

サリスフリーノマルキスハ支那政府ニハ威権
無シト云ヘリアールグレイハ北京へ一應談話
スルノ策ヲ可トセリ

第四月二日我二月十二日巴勒ヨリ今日一揆党トブル
サイルヨリノ軍兵トクルベホアーニ於テ劇
戦アリシニ一揆党ハブレリエン堡ヨリ砲撃セ
ラレテ陣取り居タル村落ヲ逐出サレタリ一揆
党ノ生擒ト為リシ者ハ皆叛賊ナリトシテ銃殺

セラレタリブルサイル方ノ捷勢頗ル盛ンナリ

第四月十一日 我二月廿二日 倫敦ヨリ巴勒周郭ノ一揆

党ノ砲臺ハ已ニ發砲スルヲ能ハス且ブルサイ

ルノ軍兵明朝ハ攻撃ヲ為ス可キノ説アリ昨日

ブハレリエン堡トマイロー堡トノ間ニ砲戦アリ

一揆党ノ兵プフト、シャチロンヲ襲撃セシカク夕

スレテ退返ヘサレタリ

第四月一日 我二月十二日 倫敦ヨリ大學校競渡船ハカ

ンブリッダ學校勝ヲ得タリ○仏國ヨリ始メテノ

償ヒ金ノ延引ヲ請ヒシニ日耳曼ニテ承諾セリ

トノ説ナリ○瑞典ノ后病死シタリ

第四月四日 我二月廿五日 倫敦ヨリ昨日一揆黨ノ兵十

万人大砲二百挺ヲ以テブルサイルニ進軍セシ

ニブハレリエン堡ヨリ發砲セラレテ盡ク打破ラ

レ且生擒トナリシ者ハ皆銃殺セラレタリ

第四月六日 我二月廿七日 倫敦ヨリフエンブエツクイッシー

シャチロン等ニテ砲戦猶未休ス○一揆黨ヨリ令

ヲ出シテ一揆黨ノ刑ニ處セラレシ人々ノ為ニ

フエルサイルノ政府ニ左祖セシ者三人ヲ直チニ
刑ニ處スルヲ命セリ

第四月十日^峨二明倫敦ヨリ巴勒ニテ兵ヲ募ル
ニ既ニ督要セシ人ニ迄及ヘリ

海外新聞四十三号終

海外新聞第四十四號

千八百七十一年第四月廿五日^{我三月六日}橫濱
刊行^{ジャパン}ヘラルト新聞ヨリ抄譯ス

第三月廿四日^{我四月}巴勒傳信機ノ報告ニ^{コミ}
イセントラール^{新設共和}ノ集會ニ於テ^{乱妨ノ}
事起レリ爰ニ護国軍ノ^{撫督ル}ウチルナル者一
人ノ議貞ト^{爭論ニ}及ヒ側ナル一ノ^{椅子ヲ}取り
テ此議貞ノ^{頭上ニ}投付ケタリ斯ノ^{如キ}乱妨ヲ
働キレカハ直ニ^{會席ヨリ}拒絕サレ^{將帥ノ}職ヲ

黙クラレタリ○コンミツテ 即チ一揆党ニシテ
党ノ者ヨリシテゼ子ラール 前ノ共和党ヲ云フ
チヤンジェイ并ニロ
シゴレアヲ免ス

第三月二十六日 我ニ月 六月 ブルサイルヨリ同所
共和政府ヨリ諸州ノ知府ニ達スル檄文ニ專ラ
正邪ノ大經ヲ明辨シ順治ハ佐乱ニ克チ共和ハ
悖逆ニ勝ツハ當然タル由ヲ述ヘタリ○ピカル
ド氏ニハゼ子ラールコージンノ指揮シタル海
陸軍大ニ報國ノ義勇ヲ振ヒ埋昂ヲ治メタルヲ

厚ク賞美ス

第三月二十六日 向倫敦ヨリヲブセルヘルト云
フ新聞ニ廢帝那破拿ハ健康ナリ頃日廢帝巴勒
ノ一揆ノ許ニ使者ヲ走ラセテ若干ノ金額ヲ賜
与セシトノ説頗ニ流布スルモ皆訛言ニ出タリ
且廢帝ニハ外國ノ人民等ノ結局ノ正當ナル決
議アラシトヲ希望ストノ説モアリ
第三月廿六日 同 伯 日耳曼帝國ノ号ハ是
迄廢レテ之ヲ名乗ル國ナカリシカ方今普君日

耳曼皇帝ノ号ヲ受タルニ依テ帝國ヲ再興設立
セントテ各國帝王ノ議會ヲ開キレカ已ニ
匈ノ三國ヨリハ名代人ヲ皇帝ウ井レムノ許ニ
差出シテ各其國君ヨリノ祝詞ヲ呈セリ
弟三月廿九日我二月九日巴勒ヨリ當時府中安靜ニ
レテ曩時ノ如キ整然ノ景状ニ回復セントス都
府中市街ノ保障令ニ於テ依然タリト雖モ大半
ハ大砲ヲ除去レ稀ニ備ヘアルモ砲口ヲ内面ニ
向ケ替ヘタリ

弟三月廿六日我二月六日昨日ヲイールド新聞ノ報告
者ノ書状ニ曰クホテルド、ウイル巴勒ノ市第ニ
テ一揆党ニ面會ス其時一揆ノ者ノ説ニ曩ニ余
等党与ヲ結ヒタル原由ハ全ク仏國ノ大臣チエ
ル氏ビスマルクトカヲ戮セテ共和党ヲ倒シ
テ計リ其證據枚擧ニ違アラス往キニ我カ党ヨ
リ争端ヲ開カシメントシテ却テチエルノ方ヨ
リ先タツテモンマルトルヲ侵掠セシテ憤リニ
堪ヘサルニ在リ○一揆党ノ趣意ハ第一ニ巴勒

ノ民権ヲ擁護シ又同府ノ圍レタル間ハ市官ノ
 共和新党ヲ設立スル為メニ勝手ニ其仲間ヲ撰
 ム一併ニ借地人ハ其地代ヲ免除ス可キ一等ヲ
 承引ス此市官ノ共和ハ往キニロイ、ブ、ラ、ン、グ、及
 ヒウ井クトル、ヒウゴ等ノ周旋ヨリハ莫大ノ者
 ニシテ其基礎ニ至リテモ甚夕堅固ナル者ト云
 フ

一揆党ノ説ニブエルサイルノ政府ヲ以テ一揆
 党ノ方ニテハ一向聞知セザル者トシ且ツ其政

府ノ所置ハ都テ無用ノ者トス又府中ニ會席ヲ
 設ケタル故新タニ市官ノ撰挙アルナラン又曰
 ク諸民日ニ輻湊シテ其党ニ仕ヘン一ヲ欲シ百
 官庶士ハブエルサイルヲ脱シ我党ノ所置ヲ仰
 クアリ○我党敢テ無益ニ人血ヲ流スヲ欲セス
 ○ゼ子ラールチャンジイ即今捕ハレ一揆党ノ
 手ニ在リト雖モ無異ナルベシゼ子ラールジユ
 クロー及ヒトロシユウノ二將ニ於テハ若シ捕
 獲ニ遇ヘバ其死刑ヲ免レ難キニ必セリ○一揆

党ヨリガリバルジイヲ軍務總督ニ補ス同人明
日来着センメノツチガリバルジイ及ヒリレフツチ
ガリバルジイ父ノ補佐トナル今日府中ノ會席
左側例坐ノ一揆党ハブエルサイル政府我党ニ
對シ信義ヲ失ハザルニ於テハ勉メテ擁護ス可
キヲ決セリ

第三月廿六日 我二月六日 巴勒ヨリ市官ノ換舉不順
序ノ事ナク相濟ミ府中大ヒニ鎮靜ス○即今ノ
布告ニセントラール、レピユブリケン、コンミツ

テ党ニハ新規市官党ナルマニレハアルゴーフ
ルンメントニ其職ヲ讓リタリ○ゼ子ラールチ
ヤンジイ拘囚ヲ赦サレブエルサイルニ向テ出
立セリ

第三月廿七日 我二月七日 倫敦ヨリ同府傳信機ノ報
告ニハブエルサイルノ政府ヨリ國中ニ布令シ
ガリバルジイヲ見掛次第ニ捕ヘ可キ由ヲ述ヘ
タリ○レフ口辭職シ往ニ日耳曼ノ内ニ囚虜ト
ナリタルセルハボール繼テ軍務ノ職ニ補セラ

ル○ブエリサイルノ政府漸ク衰微ニ及ヒシト
思ハル○チエル辞職シオーマル之ニ継クチエ
ル平常ノ私話ニ曰ク我ニ十萬ノ兵アラハ巴勒
ヲ撃ツ一党ノ中ニ有リト

弟三月廿五日 我二月五日 ブエルサイルヨリデペエ

ツ新聞ニルフリル氏狂疾發シ同僚ノ者介抱ス
ト云フ○一揆党塞納碇泊ノブエルサイル方ノ
軍艦ヲ押ヘテ水夫及ヒ要用ノ書類ヲ掠奪ス○
一揆党ノ公報ニ里昂ノ二十四大隊ヨリ選出ノ

護国軍十八大隊一揆党ヲ助クトナリ

新政府設立ノ布告アリシガ別ニ擾乱ノ事ナシ

○一揆党ノ陳管既ニ進ンテブエンセンニ在リ

弟三月廿七日 我二月七日 倫敦ヨリ巴勒新政府ノ會

合ニ於テ議負コンミュン党ノ過半ニテ揆奉ノ

事片付キタリ此ニ至リテ叛逆ノ推勢愈熾ナリ

○マジヨルサイセット其職ヲ廢セラレシヨリ

大ニ叛逆ノ勢ヒヲ增長シ僅カ一週日ノ間ニ揆

大都府ブエルサイルノ政府ニ對シ悉ク叛クノ

勢ヒトナリ之カ為メニ郷里ノ支配地ハ殆ト防
禦ノカヲ失セリ

第三月廿六日 我二月 六日 ブリユツセル 比利時 都府 ヨリ

比国ヨリ バ セイ ン ナル 者 仏 国 ニ出立シレホ

フハ ハ ク 和 蘭 ノ 小 都 府 ニ 發 足 ス 亞 弗 利 加 ノ 中 仏 国

殖民地 アル ゼ リ ア ニ 於 テ モ 方 今 叛 逆 ノ 擾 乱 ヲ

起セリ

第三月廿七日 我二月 七日 ブ エル サイ イル ヨリ 即 今 ノ

布令ニ從テ軍務局ヨリ義勇兵一大隊ツ、出兵

ス可キ由ヲ各州ノ知府ニ沙汰アリ因テ義勇兵

直チニ進發セントス其給料一日ニ一フテシク

半ナル由○軍務局ニ於テ許多ノ士官ヲ撰舉ス

第三月廿六日 我二月 六日 馮 德 里 ヨリ 西 人 エ ス パ ル

テロ蓋シ上院ノ大統領トナラン○同國ノ中セ

リイ州ニ共和政治党奮起ス

第三月廿七日 我二月 七日 倫 敦 ヨリ 廢 帝 拿 破 崙 ハ 一

族ノ者ト暫時英國ウ井ンドソルニ滞留シロル

ドスタンレー之ヲ饗應ス

第三月廿八日 我二月
ブルサイルヨリマルセ
ール令ニ於テ無事ナリ
府是迄カヲニ於テ廢レタリシカ令此所ニ再
興シテ國上ヲ執レリ及ヒ一時一揆党ニテ支配
シタルレント、エチインエニモ同ク百官ヲ置キ
大ニ次序整正ニ及ヘリ
○仏國ニ滞陣シタル王
族フレデリッキチヤルレスノ軍勢去ル一二日ノ
間ハ運動ヲ為シレカ今又着陣ス
第三月廿七日 我二月
ブルツセルヨリノルド新

聞ニ當戦争ノ際ニ国政府ノ物品ヲ除キ唯国人
ノ物品ヲ船ニ積込等ノ海上局外中立ノ先例ヲ
和蘭内閣ニテ行ヒシガ更ニ故障ナカリシトナ
リ
○奧地利亞内閣ヨリ同様ノ事ヲ比耳利内閣へ
申来レリ

第三月二十九日 我二月
伯灵ヨリピスマルク一
揆党ト合体同意セシト云フ
○一揆党ノ説ニハ
チエル氏ノ管スル政府國中ノ保証ヲ受ケ難ク
且ツ新規會合ノ撰擧コソ切要ナル由ヲ述ヘタ

リ○一揆党ノ立言ニ一ニ日ヲ出スレテ償金ノ
年賦ヲ日国ニ拂ハントナリピスマルクハ別ニ
意存ナキノ旨ヲ厚意ヲ以テ答ヘシトナリ
第三月十七日我二月七日巴勒ヨリ一揆党ノ公報ニ
新政府ノ第一トスル課業ハ国民ノ権ヲ擁護シ
且ツ郷人乱妨ヨリ諸大都府ノ方トヲ守護スル
証書ヲ編集スル事トス○ラペリイトト云ヘル
新聞ニ巴勒ヨリノ名代人ハ各辭職シテ好キ機
會ヲ待ント決定ス○同シ新聞ニシユック、フロク

リイヲ外国事務ニ補シマクマホードヲ以テ軍
務ニ補スル新役ヲ内閣ヨリ報告アリ○一揆党
ノ役人ハ第一第二第九郡ヲ除キ其餘ノ郡ヨリ
撰マレシトナリ○仏領アルゼリヤノ一揆確説
ト思ハル○ブルスロイブルボアレイノ三州
ニ在ル舊政府方ノ者利益アリ此所ニ於テ豪家
ハ發言ノ権ヲ奪レ商人ハ舊政府方ノ者ヲ助勢
ス○拔擢ノ人名フルレニスバンキイピヤット
ゴルボンノ外分明ナラズ○砲臺ノ急築造并ニ

平常ノ防禦等更ニ懈タラザリシト○一揆党口
アール河ノ軍勢ヲ増サンコトヲ普人ト商議スト
ノ風聞アリ○クレメル氏一揆党ノ嫌疑ヲ受
ケ去ルルニサイルニ出立スト云フ

第三月廿八日 我三月 倫敦ヨリタイムス新聞ノ

報ニ普人巴勒ニ據留センコトヲペエルサイル政府
ニ要ムト雖モ政府ニテハ之レヲ拒絶ス○チエ
ル氏ハ巴ガ操持ヲ屈セス一揆党ニ仕ヘザルコ
ト辨舌ヲ振ツテ誓言マ

第三月二十七日 我三月 紐育ヨリ去ル土曜日ニ

同国ノ海軍局ニ一珍事アリタリ是レハ二艘ノ

美麗ナル快船五分時間ニ同港ヨリ桑方斯哥ニ

向テ出帆セシカ一艘ハリングリイテルト号ニ

千百八十三噸船將ハムブリイムナリ一艘ハフ

ロリイ号ニ千三百零八噸船將グウスナリ

兩將共ニ各疾駛ニ長スル者ナルヲ以テ諸民觀

ル者此競船ノ結局如何アラント思ヒ居タリ

○合衆国海軍ノ總督ホットル氏ノ指揮シタル

サウミウー号ノ蒸氣船ハ副總督ジヨニロビル
ス氏ノ即今亞細亞行ノ船隊ニ合スルナランロ
ビルス氏ノ船隊開行ノ目的ハ高麗ニ貿易ヲ開
クコトニハ去ル千八百六十六年ニ我亞國
ノ蒸氣船此國ノ海岸ニ乗掛ケタル時國人其水
夫ヲ殺害シタル償金ヲ需要スルトニテ一ニ
週日ヲ出テスレテ航海ニ及ヘルナル可シ○右
船隊ハ總督旗船第一等コマード号船大砲四十
六門第三等アラスカ号船大砲十二門同ペニイ

ヤ号船同断第四等バロス号船大砲一門ヲ載ス
是レハ曳船ナリ蘇士海峡ヲ經過シテ右船隊ニ
合スル故ヲ以テ先^{ビユウス}タチテ出帆ス右海峡鑿開ノ
後合衆國船隊ノ内第一ニ渡海レタル者ナリ第
四等アシユロット号ハ大砲六門同クモノケシ
イ号船同断右總船隊列ノ内ニテ前衛後拒ハ二
艘ノ露輪船ニシテ此航海ノ留守ノ間ハ專ラ亞
國ノ保護ニ注意シテ日本并ニ支那ニ殘ルナラ
シ

海外新聞第四十四號終

海外新聞四十五號

千八百七十一年第四月廿五日 我三月六日 横濱

刊行ジツパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第三月廿八日 我二月八日 巴勒ヨリ當時巴勒ハ無事

ナリ一揆党ハ今ニ於テ輕カラサル職分ヲ持セ

レアリ

フロレンス軍務ノ職ヲ辞ス

同月同日同所ヨリ府中ノ府院フレエスホテル

ド、バイルニ於テ新政府激徒ノ設立ノ布告

アリ○議院ノ高坐ハ総テ赤色ヲ以テ飾レリ
 赤色ヲ用フ故ニ○右府院ニ大砲六十門ヲ備フ
 一名赤党ト云フ
 ○為替役所ヨリ激徒ニ再ヒ五万フランク
 ランクハ我ヲ調達ス
 第八ニ當ル
 第三月廿九日我二月倫敦ヨリ普軍ハ騷乱ノ終
 ル迄巴勒ノ傍ナルイスル、アダムニ屯集ス
 タイムスノ特報ニ曰ク政府ニテハ明日四萬余
 ノ軍勢來着セントヲ待ツ蓋シ八日ノ中ニ巴勒
 ニ進撃スル精兵ヲ編成ス可シトナリ○議院ヲ

フランテンブリウニ遷スノ用意アリ

ブリユセルヨリニユフス新聞、特報ニ曰クア

ラビヤ酋長モクラニイ四万ノ軍勢ヲ以テ仏領

アルシイル亞弗利加ヲ距ル二十五リイークス

グハ凡我一ノ地ニ在リト此人仙国ニ對シテ戦

争ヲ布告ス

第三月廿八日我二月巴勒ヨリ今午後偽政府ニ

テ下等セントライルコンミツテヲ設立ス其議

員十二人ナリアツシイ真ノ長官トセリガリハ

ルジイ假ノ長官トナル○ウヲルゲミイ免セラ
レガリバルジイヲ護国軍ノ總裁ニ任カ可キノ
論アリサレド其職ニ就クヤ如何ヲ知ス○マル
セルノ一發党偽政府ノ設立ヲ許容スルノ布
告ヲナス

政府軍務局ヨリノ布告ニマルセルハ園中ノ
者タル由ヲ述ヘタリ
弟三月廿九日我二月九日マルセルヨリ或ル官府
ノ廻状ニリヤン及ヒツウロフス治安ニ復ス○

マルセルナルポニユチイエノ外大都府ノ
一揆裏徹ス○仏国大半ハ政府ヲ助ク○普軍巴
勒ヲ據有セントシタルノ事實ハ偽政府ノ方ニ
テ騒乱流血ノ患苦ヲ避ケントシテ時宜ヲ計リ
井タルニ依レリ○メノツチガリバルジイ外国
ノ敵ト戦フ外ハ其餘ヲ避ケタリ
同月同日巴勒ヨリ即今府中無事ナリ○赤党ノ
旗諸方ニ見ユ○レット、コンミツテ分散ス○刊
エルノ同僚等フエルサイルニ捕執セラレ外国

交際ノ難事ト成レリ

同月同日フエルサイルヨリ同所ハ軍營トナル
○諸方配當ノ護衛兵絶エス同所ニ来着ス

セ子ラールルシヤンジイ往キニ偽政府ノ囚虜ヲ
赦サレシ時一揆党ニ誓ツテ外国人トノ外ハ決
シテ戦ハザルベキ旨ヲ述タリ

同月同日倫敦ヨリ英国ケンシンダトニ於テ
今日學術書院ヲ開キ博ク国民ノ需用ニ當ツ此
時ノ看者一万人ニ及ヒ女主ブイクトリマヲ始

メトシテ世子王族貴族モ共ニ出席ス

第三月三十日我二月十日巴勒ヨリノ公報ニレツド

コシニツテ党府官党ノ方ニ諸政權ヲ回復シ直チ
ニ其旨ヲ布告ス○府官党ヨリ命令ヲ出シテ市
民ノ階級ヲ平等ニス○護国軍ノ外ハ募兵ノ事
行ハレス○身体健壯ナル者ハ都テ護国軍ニ附
属ス可シ○他ノ命令ニハ千八百七十年十月ヨ
リ同七十一年ノ四月迄府中借家人ノ家税ヲ免
除ス○又一ツノ命令ニハ百官政府ヨリ発行ノ

布令ヲ採用スル者ハ直チニ其職務ヲ免ス可キ
由ヲ述ヘタリ ○ブレエシブーントニ於テ陸
軍士官ノ黜陟日ニ報告アリ
偽政府ニテハ政府ヨリ出タル法度書ノ制札ヲ
禁止ス ○ペレキスルウシイ及ヒコル子ツト偽
政府ニ加擔シタルヲ以テ自ラ議會ヲ脱ス ○護
国軍ニハ布告ヲ出シ府民ヲ鼓舞シ早ク天下
一般ニ共和ニ至レルノ時コソ余等ノ功劳ノ顯ハ
ル、秋トス可シト云リ

第三月三十日 我二月十日 巴勒ヨリ當時府中ノ形狀
頗ル凄愴ヲ増シタリ僅カ十日内ニ府中ヲ脱走
スル者十六万人ニ及ベリト言フ ○牢内ノ者ニ
説法スルヲ禁ス ○一揆党ハ保險會社ニ皇后
ノ托金^{アツキキン}ノフランヲ頻リニ穿鑿ス ○フユリイ
ナル者ブリユセルノ和約議會ニ出席ス
第三月三十日 我二月十一日 タイムスノ特報ニハ戦争
ノ將サニ起ラントスルヲ述ヘタリ ○一揆党
方ノ新聞^{ラブリユセル}ニハ專ラブレエルサ

ルノ議會ヲ脅レ解カシメントス○一揆党自負
 レテ官軍ヲ輕侮ス○ブランク氏密カニ言ヘル
 ハ偽政府ノ議論ニテハフエルサイルヲハ英亞
 墨利加商社ノ者ニ一ミルリアルドフランクス
 一ミルリアルドニ賣リレントクロードヲ八百
 八十万々ニ當ルニ賣リレントクロードヲ八百
 ミルリアンハ百万ニ當ルフランテングリエフ
 ヲ五百ミルリアンニ日国ノ豪家ニ賣リ普人ニ
 償ハンフヲ言述セレトナリ○ニウス新聞ノ特
 報ニ政府ニテハ牛馬ヲ巴勒ニ輸送スルヲ拒

絶ス○偽政府ニテハ急ニ信義アル護國軍ヲ解
 ケリ

第三月三十日 我二月 倫敦ヨリビスマルク新聞
 ノ通告者ヲ招待シ先ツ通常ノ談話終リタル後
 日国ニハ巴勒ノ事情ト仙國ノ内難トニ関接セ
 サル由ヲ述ヘタリ之レカ事實ヲ察スルニ其前普
 国ヨリ一揆党ノ許ニ使者ヲ遣リ一揆党ニ抵抗
 セズシテ信義ヲ尽クス可キ由ヲ申シ贈リシト
 言フヲハビスマルクノ專ラ辨解セントスル

ニ在リビスマルクノ言ニ日国ト一揆党トノ関
係ニ付近頃大イニ事実ヲ謬リタル説ノ専ラ英
国ニ流布セシヨリ人心頗ル疑惑ヲ生ス其故ハ
ゼ子ラールスコロナインノ書状ノ中ニ日人ト
一揆党トノ無夏ナル間ハ日人ノ方ニテ敵對ノ
形状ヲ現ハサズトアリシヲシヨルナールヲフ
ヒシイルト云ヘル日誌ノ文中ニ敵對セザルト
云フ文意ヲバ誤ツテ信切ト譯シタルヨリ起レ
リ實ニ違ヘルノ甚シキ者トス且一揆党ノ事ヲ

論スル日国ヨリ來レル傳信機ノ報告文三通ア
リニ通ハ只戦争ノ事ノミヲ載セ外一通ハ余ビ
マルヨリシテフアールニ送レル書状ナルカ
復之ヲモ誤解セリ又曰ラク日国ノ素志ニテハ
決シテ仙國ノ内事ニ関接スルヲ無カル可シ故
ニ人能ク此書翰ノ意ヲ考ヘ己ニ決定シタル和
議ノ趣意ヲ体認ス可シ普ニテハ若シ仙國正紗
ノ政府ヨリ和議ノ大旨ヲ貫徹シテ余等ノ助勢
ヲ乞バ尚幾許カ之ヲ助勢スヘシ又日国ニテ治

安寧静ヲ好ム開手ニハ第一ニ寛大ノ所置ヲ施
シテ仙國ノ制令行ハレ秩序秩整然タランコトヲ助
ケテ大成セシメントス且ツ仙政府ヨリ呼集メ
ントスル諸軍勢ヲ諸州ヨリ容易ニ来着セシメ
若シ政府ヨリ請ヘルニ於テハチエルニ協力シ
テ巴勒ノ一揆ヲ壓倒ス可シトナリ
ビスマルクヨリノ布告ニ唯正統ノ政府ノミハ
約定ノ償金ヲ償フニ慥カナル者トス故ニ之レ
ヲ助勢セントシタルトナリビスマルクニハ一

揆党ヲ以テ只尋常ノ逆賊トナシ余等政府ト決
定シタル議會ノ條約ヲ一揆党ノ違犯スルニ於
テハ直チニ日人一揆党ヲ逆賊ノ處置ニシ兵力
ヲ以テ擊破ス可シサレ右條款ヲ違犯セザル
間ハ暫時之ヲ寛恕スト
巴勒ノ偽政府ニテ内議アリ七人ノ議政官ヲ任
シ且ツ稅務軍務裁判教育用度教導カ役外國市政
等ノ官府ヲ設立ス
第三月三十日 我二月 倫敦ヨリタイムス新聞ノ

報告ニ今時巴勒ハ實ニ危険ノ地位ニ在リ○府
中ノ住民ハ不意ノ誅責其躬ニ来ランコトヲ各々畏
怖シ密カニカイロチイン、カイロチイン
耳語セシトゾ
斬首ト

チエルノ勢力衰へタルニ於テハ直チニ日人巴
勒ヲ據有セントノ説アリ

偽政府ノ布告ニ一揆党ノ共和国中一般トナル
可キ事ヲ預言ス○マルセルノ一揆党衰微ス

第四月十一日 我二月廿二日倫敦ヨリ一揆党ノ據リタ

ル保障ノ砲臺發砲ノ声絶エ果タリ官軍明日進
撃ノ企アルト思ハレタリ○昨日ラノレエン城
トホルテマイロツトノ間ニ砲戦アリ○一揆党
シヤチヒンヲ齧ヒンカ竟ニ追卻セラル

第四月十三日倫敦ヨリ一揆党ゾエルサイルニテ
速カニ官軍ヲ襲ハントスト思ハルサレトキエ
ルハ自若トシテ成功ヲ期ス○拿破崙英國チイ
セルヒユルストニ在リテ疾病ヲ得タリ

第四月十六日 我二月廿七日護國軍ノ數大隊偽政府ノ

意ニ忤コタルヲ以テ解兵セラレ

一揆党ノ説ニテハ己等ノ方ニテ官軍ヲ追卻セ

シト誇張スト雖モチエル其事ヲ以テ形跡ナキ

トトス

第四月十八日我二月廿九日倫敦ヨリ正偽ノ兩党去十

六日我二月廿七日ニユイレニテ互ヒニ勝利ヲ得ク

リト誇言ス○去ル月曜日我二月廿八日ニ官軍アスニ

イニテ決戦アリ勝利ナルトノ確報ヲ得タリ

第四月廿日我三月朔日倫敦ヨリテリエセルノ會議

暫時閉院ス是ハ暗ニ仏國ニ一ツモ恕許スルナ

キヲ見ルニ足レリ○政府ノ議論ニ官軍一揆党

ヨリヲン河ノ對岸ニ追卻シタル後十九日ニア

シユルニ抛ル○偽政府ニテハ官軍アシユルニ

抛リタルヲハ實ニ虚喝タルヲ述ヘタリ○官軍

巴勒ノ南方ニ屯集シイシイ并ニクラマートニ

設ケアル一揆党ノ整壕ヲ嚴ヒタリ○偽政府ニ

テハ專ラ和睦ノ事ヲ周旋シタル四通ノ日誌ヲ

禁禦ス

ブリユセルニ於テ和時ノ會議アリ○英國世子ノ正妃一男ヲ産シガ後速時ニ死ス巴勒ノ一揆党巴勒ノ大教長ヲ捕ヘシ上許多ノ禮拜堂ヲ掠破ス○ゼ子ラールブロレンス旗下一揆党數十萬ニ増進ス○ブアレリエニ城砲發ヲ開キ一萬五千人ノ一揆党ヲ打ち殺セシトナリ○ゼ子ラールブロレンス殺サレゼ子ラールシユブル彈丸ノ下ニ落命ス

第四月廿一日 我三月二日 倫敦ヨリブッドケットニ

テ請取リタル歳費ノ高ヲ算スルニ遺拂ヒ一ヶ年ニ千九百五十九万五千ポンド 一ポンド我トセ五兩ニ當ルトセシニ今年ノ遺払ヒ高七千二百三十万ポンドニ及ビシカハ差引不足現ニ二百七十一万三千ポンドナリ斯ク費用ノ増シタルハ全ク軍勢ノ數ノ増セシニヨレリ○同國ニテ火^ツ柴^ト并ニ遺財等ヨリ運上ヲ取リタリ且四民ノ歳息ヨリ取ル税金ハ自後一ト四半分ノ量ヲ増ストトナレリ○土國ノ執政オマール薨ス

第四月二十二日我三月三日倫敦ヨリ一揆党ニユイ
リニ於テ保障ヲ掠奪セシト誇張ス

○昨日ニユイリイ及ヒクリシイニテ砲戦アリ

○大合戦未タ無シ日ナラスシテ發ル可シ○一

揆党ノ方ニテハ摠テノ用意頻ナリ

第四月十三日我二月廿四日倫敦ヨリ官軍屯集ノ地ハ

ブルサイルニ在リ○マルシヤルマクマホン

ブレレンタンニ發足ス○一揆党トノ決戦速カ

ニ發ルナラン然レドモチエルハ其成功ヲ期シ

タリ○官軍ブルサイル并ニオルレアンノ火

輪車道ヲ據有ス○日人レントデニスニ於テ

巴勒ノ方ヘ向ケテ砲臺ヲ築造ス

第四月十五日我二月廿六日倫敦ヨリ仏國ヨリ最後ノ

注進ニ護國軍ノ數大隊朝議ニ忤ヒタルヲ以テ

解兵セラレタリ○偽政府ニ對シ勤仕ヲ忌避シ

タル者ハ武器ヲ取揚ケ城塹ノ修復ニ驅役ス

偽政府ノ布告ニ官軍敗走シテ布陣ノ地ヲ失ヒ

シヲ流布セリ○チエルハ都テ偽政府ニテ誇

張シタル勝利ノ説ヲ虚喝ニ出タリトセリ○去
 ル土曜日ヨリニユイリイニテ兩政府定約ノ談
 判金曜日迄無異ニ續キタリ○魯國オデツセニ
 テ騒乱起リ耶蘓宗ノ者猶太宗ノ者ヲ攻撃セシ
 ガ却テ耶蘓宗ノ者一千人禁錮セラレ
 第四月十八日我二月廿九日倫敦ヨリ仏國政府ニテ本
 月三十日ニ市政官撰擧ノ命令書ヲ発行ス○去
 ル月曜日、朝交戦ノ後官軍ハエシイルヲ眼下
 ニ見タルシヤトラデコンノ要害ニ據リシトノ

確説ヲ得タリ○偽政府ノ軍將チイセルトノ布
 告ニ十六日我二月廿七日ノ夜ニニユイリイニテ苦戦
 アリ其時羅馬法王附キ仏國ノ兵隊一揆党ニ困
 マレ其所ノ寺院ニハ赤旗颯リタリ○政府ノズ
 レンブロスキノ説ハ大ニ反對シテニユイリイ
 ノ新陣ヲ所有シ三ツノ保障ヲ奪ヒ衆多ノ囚虜
 ヲ得ルト云フ又曰クニユイリイノ板橋ヲハ雙
 方ニ於テ争ヒタリ○英以米ノ三国休戦ノ事ヲ
 調ヘンコヲ務ム○メノツチガリバルジイ府官ノ

議負ニ選マル○議負ノ撰舉些少ナルヲ以テ一
般衰微ノ景況アリ

第四月二十四日我三月五日倫敦ヨリ今日ニユイリ

イニテ住民ヲ退去セシメン為メニ一時休戦ア

リ○規矩私社ノ者政府ニ来リ巴ニ設立ノ巴勒

ノ民権ニ基キタル諸件ヲハ政府ノ許諾センコ

ヲ要メレガチエル之ニ答ヘテ曰ク市官ノ方ニ

テ設立シタル民権ダモ當方ニテハ與聞シ難キ

コニテ余等唯政府ノ議會ニ依リテ決定シタル

民法ヲ循奉センコヲ要ストナリ○日人今ニ於
テ仏國ノ諸柵ヲ退去セス○英國諸税ヲ置クノ
處置非難サレトナリ

第四月二十五日我三月六日倫敦ヨリレエチステツ

グニ於テビスマルクノ布告ニ仏國ニテ償金ヲ

前ニ償フト雖モ巴勒ノ諸柵ヲ明渡スコハ和議

ノ結末ニアル可シ○英國ニテ火柴ノ運上ヲ取

リ之レカ為メニ倫敦ノ職人大ニ動搖スト云フ

海外新聞四十五號終

御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛

